

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊明市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 27日		～ 令和 7年 11月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 27日		～ 令和 7年 11月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対して、こどもの特性を十分に把握したうえで支援計画を作成し適切に支援を実施すること。	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、専門職も含め児童発達支援計画を作成し支援を行っている。	現在配置していない専門職を新たに雇用し、より子どもの特性を理解し専門的な支援を実施できる体制を整えていく。
2	保護者への情報提供や交流、研修等の機会を確保している。	保護者会やサロン、どんぐりのわ(談話会)などの開催により研修機会の確保や保護者同士が情報交換など交流できる機会を設けている。	事業所のプログラムや活動内容を保護者へ知っていただく機会を増やしていく。また、交流や研修の内容を情報発信することで多くの方々に周知することすることで参加人数を増やしていくことができると良い。また、保護者の意向を取り入れることで活動内容を充実していく。
3	地域に開かれた事業運営	共生交流プラザ内に事業所があり、関係機関や地域の方々と連携しやすい環境にある。また、ボランティアや実習生などの受入も行っている。	市内の他園、学校等との情報共有の機会の充実を図るとともに、日々の活動を見学していただくことができる機会や地域の方々に関われる機会等、地域に開かれた事業運営を図っていけるよう検討・実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中で他の子どもと交流する機会が少ない。	近隣の公園や児童館などへ遊びに行く機会を設けており、施設内で地域の方々と接する機会はあるが、施設外へ出る機会を十分に確保することができていない。	他園への訪問の機会や事業所内で地域の子どもたちと交流できる機会を確保するなど他のこどもと活動する機会を増やしていく。
2	家族支援プログラムの機会の提供	保護者会やサロンの開催を行っているが、家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行うことはできていない。	家族支援プログラムやきょうだい児支援について理解を深め地域へ周知することで、新たな機会を検討・実施できるよう進めていく。
3	第三者による外部評価の実施	市役所担当課からの年2回のモニタリングや保護者や従業者の事業所評価は実施しているが業務都合等により第三者による評価を行う機会を確保することができない。	第三者による外部評価の実施について検討し実施できるよう進めていく。